

介護する家族を支える しくみづくりへ

小平・生活者
ネットワーク
ニュース No.99

2010年7月15日
発行責任者/打木香澄

〒187-0045
小平市学園西町2-15-2 CB一橋学園
TEL & FAX 042-342-4494
E-mail kodaira@seikatsusha.net
http://kodaira.seikatsusha.net/

介護の必要な家族がいる人は、時に疲れ果て行き詰まることもあります。
本人への支援とともに、家族を支える支援が求められています。

介護する家族の 孤立感

老老介護に疲れ果てた高齢者の無理心中や介護者としての自分に行き詰った末の自殺などのマスコミ報道が後を絶ちません。高齢者の介護を家族が抱え込んでしまっている状況は介護保険制度ができた後も変わっていないのです。介護する家族によっては、自分がやらなければならないと思いつみ、同じ家族にも共有できずに辛さや責任感を一人で抱え込んで孤立感を深めていきます。相談しようにも、どこへ行ったらいいのかわからず、そんな中で介護される本人



▲家族による家庭での介護風景

への感情を荒げることになってしまふこともあります。

介護者同士の話が出来る場や相談できる場があり、ケアする家族の心を解きほぐすことができる時間があれば、介護者が孤立したり疲れ果ててしまふことなく日々を過ごすことができるでしょう。

これからの福祉の向上・発展には、ケアする家族の心のケア、ケアスタッフのメンタルヘルスが必要であり、家族や本人、介護や医療スタッフも心豊かに過ごせるような環境づくりが不可欠です。介護する家族への支援は、まずその辛さに寄り添い、「家族だけでがんばらなくてもいい」「休んでもいい」というメッセージを送ることから始まります。

家族支援の ネットワークを

小平市内に支所を含めて8か所ある地域包括支援センターは、総合相談支援事業と包括的・継続的ケアマネジメント事業の役割があり、いろいろな機関の連携の輪の核となって地域ネットワークをつくることが求められています。市



内には認知症の家族の会もあり、互いに情報交換しながらゆるやかにつながっています。また、家族やケアスタッフなどの介護者を社会的に支えようという動きもあり、家族会などの活動を横断的につなげ介護者支援の輪を広げようとしています。

2000年に始まった介護保険は、本来家族の状況にかかわらず本人が必要とする介護を提供するはずのものでした。ところが、家族の負担はなかなか減らず、06年の改正によって、さらに家族は厳しい状況になっていきます。介護保険の制度を使いやすくするとともに、家族がどうしたらいいのか悩んだときに、介護保険の使い方や生活相談も含めて支える体制づくりを求めています。

(平野ひろみ)